

(様式2)

## 平成21年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立富来高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 中高一貫教育の実績を生かし、地域理解教育・国際理解教育の充実を図る。	① 中高一貫行事を厳選して、内容の充実を図る。	A とても楽しかった。 B ある程度楽しかった。 C あまり楽しくなかった。 D 楽しくなかった。	12% 69% 14% 4%	・生徒アンケートの結果、A+Bが81%となり、判断基準を上回った。天候が悪く地引網を実施できなかったが、他の行事を生徒は楽しんだものとする。 ・次年度も行事を精選し、取り組みたい。
	② 地域理解教育の充実を図る。	A とても高まった。 B ある程度高まった。 C あまり高まらなかった。 D 高まらなかった。	8% 69% 18% 4%	・A+Bが77%となり、判断基準を上回った。 ・地域に根ざした学校として、閉校までの最後の年を充実して取り組んでいきたい。
	③ 国際理解教育の充実を図る。	A とても工夫されている。 B ある程度工夫されている。 C あまり工夫されていない。 D 工夫されていない。	17% 62% 18% 2%	・A+Bが79%となり、判断基準を上回った。ワークショップに参加するといった能動的な形態で実施したため、生徒にとってよい研修となったと思う。次年度は国際社会に目を開くための明確な意識を持った活動にしたい。
	④ 英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。	国際コース2年生準2級取得が A 5名以上である。 B 4名以上である。 C 3名以上である。 D 3名未満である。	A 5名	・22Hの生徒17名中、8名が準2級に合格した。また、32Hの生徒1名が2級に合格した。今後、準2級の合格者をさらに増やすように指導していきたい。
学校関係者評価委員会の評価				・保護者や地域住民は富来高校が閉校することをたいへん残念に思っている。地域に根ざした学校として、最後の一年を実りあるものにしてほしい。 ・これまでの成果を踏まえ、引き続き生徒の指導をお願いしたい。
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策				・本校の特色ある教育活動である中高一貫教育推進事業は、次年度が最後である。その教育活動の見直しと精選により、最後の年にふさわしい教育活動を展開したい。 ・地域理解教育や国際理解教育におけるこれまでの成果を踏まえ、内容の工夫や改善を図り次年度行事等に反映させたい。

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 基本的生活習慣の確立により生徒の学力向上に努め、個に応じた進路実現を図る。	① 基本的生活習慣を確立させる。	前年度に比べ、遅刻者が A 30%減少した。 B 20%減少した。 C 10%減少した。 D ほとんど変わっていない。	B  3年A 2年D	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生は、最終学年としての自覚ができ、大いに遅刻者が減った。2年生は、昨年度より多少減少した。全体として、昨年度より20%の減少であった。</li> <li>次年度も日常的に指導をしていきたい。</li> </ul>
		前年度に比べ、身だしなみ検査の不合格者が A 30%減少した。 B 20%減少した。 C 10%減少した。 D ほとんど変わっていない。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体として腰パンやシャツ出しも少なくなり、自覚する生徒が多くなってきたように思う。</li> <li>次年度も標語などで意識付けをしていきたい。</li> </ul>
		校舎の清掃が A 隅々までゆきとどいている。 B ほぼゆきとどいている。 C 不十分な箇所がある。 D 徹底されていない。	19% 56% 25% 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>大半（75%）が清掃がほぼゆきとどいているという結果となった。係活動としての清掃がなされていたといえる。</li> <li>22年度はさらに少ない生徒での清掃となるが、学校の環境整備を意識できるよう指導したい。</li> </ul>
	② 家庭学習を促すとともに、読書の習慣を身につけさせることで、学力の向上を目指す。	平日の学習時間が平均 A 2時間以上である。 B 1時間以上である。 C 30分以上である。 D 30分未満である。	5% 42% 36% 17%	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の家庭学習が少ないが、本年度はA+Bが47%となった。3年生の進路に向けた学習と2年生のKGノート等の取り組みの成果が出たのではないかとと思う。</li> <li>家庭学習をさらに増加させ、その内容を充実させる方策を考える必要がある。</li> </ul>
	③ 生徒の適性や希望に応じて適切な進路指導を行い、正しい進路の選択とその実現を図る。	A 大半の生徒が適切な進路を選択して、実現のために努力している。 B 大半の生徒が適切な進路を選択しているが、努力がやや足りない。 C 適切な進路選択を行っているが、実現のための努力が不足している生徒がかなり見られる。 D 適切な進路の選択と実現のための努力の両方ができていない生徒が多い。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>大半の生徒は適切な進路選択を行っている。特に国公立大学を希望していた生徒は、よく努力し4名もの合格者を出している。</li> <li>大学入試センター試験の受験を全員に課すことによって大学進学者のみならず、短大・専門学校進学者や就職内定者も最後までしっかりと学習に取り組むことができた。</li> </ul>
		図書の貸出冊数は、一人平均年間 A 7冊以上利用している。 B 5冊以上利用している。 C 3冊以上利用している。 D 3冊未満である。	A  16.1冊	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人あたりの年間貸出し冊数は、16.1冊であった。</li> <li>朝読書の時間が定着して、生徒の読書習慣が身についたものと考えられる。</li> <li>次年度も引き続き、朝読書の時間を大切にしていきたい。</li> </ul>

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
		進路志望調査と実際の進路結果の一致した生徒が A 70%以上であった。 B 50%以上であった。 C 30%以上であった。 D 30%未満であった。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路志望調査と進学結果の一致した生徒が増えてきている。特に本校の課題であった国公立大学を志望しているが、実現がかなわず、進路変更する生徒の数を最小限にとどめることができた。</li> <li>昨今の経済状況も考慮しながら、生徒の経済的負担にならない形でのセンター試験全員受験を継続する。</li> </ul>
		クラス担任は個人面談の必要なときには A 必ず行った。 B ほぼ行った。 C あまり行えなかった。 D 行えなかった。	50% 50% 0% 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス担任は、進路実現のために面談を効果的に行い成果をあげている。</li> <li>担任と進路指導課の意思の疎通をはかることによって次年度も進路実現のための実践的な面談を行っていきたい。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度、教職員が減っても生徒一人一人の進路実現のために尽力してほしい。</li> <li>社会へ出てからも人との付き合いが大切なので、協調性のある生徒を送りだしてほしい。</li> <li>挨拶・服装など、基本的な生活習慣を身につけさせることはとても重要である。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立のためには、地道に生徒を指導していく必要がある。生徒指導課だけでなく、教職員が一丸となって指導していきたい。また、保護者との連携も密にしていきたい。</li> <li>生徒一人一人の「夢の実現」のためには、生徒の学力を上げることが不可欠である。そのため、引き続き、教職員の「授業力」の向上を継続していきたい。</li> </ul>		
3 部活動の充実、特別教育活動の活性化を等を通じ、地域との連携を図る。	① 部活動を充実させる。	生徒は部活動に A 積極的に活動している。 B ある程度積極的に活動している。 C あまり積極的に活動していない。 D 休みがちであり、ほとんど活動していない。	37% 23% 14% 15%	<ul style="list-style-type: none"> <li>A+Bが60%で目標には達していない。生徒数も1学年減ったことで、部員数も減少していることも一因となっている。</li> <li>合同チームとして、野球部やバスケットボール部は元気に活動しているので、次年度も頑張りたい。</li> </ul>
		部顧問は A 満足感のもてる活動にしている。 B ある程度満足感のもてる活動にしている。 C あまり満足感のもてる活動にはなっていない。 D 満足のもてる活動にはなっていない。	31% 56% 13% 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>A+Bが87%となり、判断基準を上回った。</li> <li>顧問だけでは指導に限界があり、外部の指導者を招いて活性化を図る部もある。</li> </ul>
	② 特別教育活動を活性化させる。	生徒会行事内容に A とても満足した。 B ある程度満足した。 C あまり満足できなかった。 D 満足できなかった。	69% 31% 0% 0%	<ul style="list-style-type: none"> <li>A+Bが100%となり、今年度は生徒の満足度は申し分なかった。</li> <li>次年度は最後の一年となる。行事の内容を検討しながら、生徒の満足感が得られる行事にしていきたい。</li> </ul>

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
		ゴミの分別では、生徒は A 意識をもち、よく実行できている。 B 意識をもち、ある程度実行できている。 C 意識はあるが、不十分である。 D 意識がないので、十分ではない。	44% 49% 4% 3%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B以上が93%と、意識・実行力が高まったといえる。定期的な働きかけもあり、また、家庭でも分別が定着していることもあり、意識が高まったのではないかな。</li> <li>・節電、節水も含め、さらに環境保全の意識を高めさせたい。</li> </ul>
	③ 地域との連携を図る。	地域との連携が A とても深まった。 B ある程度深まった。 C あまり深まらなかった。 D 深まらなかった。	21% 51% 21% 5%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA役員を中心とした各種の活動において、地域の方々比以前より多く学校に足を運んでくれた。また、地域の行事においても保護者や生徒が以前より多く参加したことが評価されている。</li> </ul>
		保護者への広報活動が A 十分できている。 B ある程度できている。 C あまりできていない。 D 十分ではない。	10% 55% 24% 7%	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA広報誌は11月末と3月末の発行である。したがって不十分ととらえられているのではないかな。後半は、学年便りを通じて学校での出来事を紹介したが、目標までは少し足りなかった。</li> </ul>
学校関係者評価委員会の評価		<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動における活動と好成績は、生徒・保護者はもとより、地域に活気と元気をもたらすことになった。</li> <li>・部活動では、生徒数が少なくなったが、ホッケー部インターハイ出場や弁論部の全国大会出場などよい成績を残してよかった。</li> <li>・地域との連携は、来年度閉校式などもあるので、同窓会やPTAとの連携を今年以上に深めてほしい。</li> </ul>		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の部活動でも、できる限りの指導を継続したい。単独チームで参加できる部はもちろんのこと、合同チームで参加する部でも、生徒に最後まで部活動に参加できたことの喜びを感じさせたい。</li> <li>・ホッケー部や弁論部の全国大会出場は、今年に続き来年度もぜひ成し遂げたい。</li> <li>・各種の学校情報発信に関しても、今年度の内容を精査して、来年度さらによりものになるように手段や方法を工夫したい。</li> </ul>		